

調査研究成果書

私たちは鳥羽市で年間廃棄される牡蠣殻のうち鳥羽かき殻加工センターに集められた牡蠣の量、加工までの過程を調査した。2025年8月18日に同センターを訪れ、ケアシェル株式会社の社員と共に見学をした。そこで同センターは一般人の見学も可能であることや肥料を販売していることが分かった。また、市が運営に関わっていることも分かった。これらの調査研究から鳥羽の課題が市民の関心の低さ、広告自体の少なさを課題と設定し、鳥羽市民や周辺の住民が多く集まる「オクトバ」でワークショップ開催を考えた。

以下、調査研究を元にワークショップで展示するために作成した資料の説明を行う。

1. 鳥羽の牡蠣殻と本調査に至った経緯



この資料は私たちが本研究に至った背景を説明するものである。具体的な内容については省略するが、簡単に流れを説明すると鳥羽駅前の開発に関するアイデアコンペの案で私たちは鳥羽の牡蠣殻の現状に着目し、それが優秀賞を受賞したため、審査員や市民の関心をつかめるのではないかと考え、より具体的に調査をしようと考えた。

2. 市民への告知資料

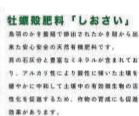
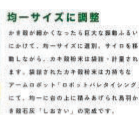
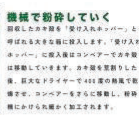
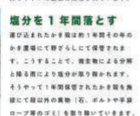
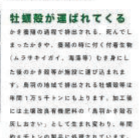
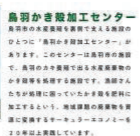


これは牡蠣殻に関する現状を知らせるための資料となっている。市民により具体的に想像してもらうために身近な例に例えて紹介した。

調査研究成果書

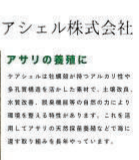
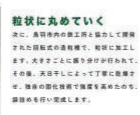
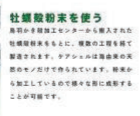
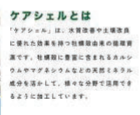
3. 鳥羽かき殻加工センター、ケアシェル株式会社の告知

鳥羽かき殻加工センターって知っていますか？



こちらが鳥羽かき殻センターとケア
シェル株式会社の告知を行う資料と
なっている。牡蠣殻の現状を先の資
料で認識させ、こちらの資料でどの
ような活用がなされているかを示し
た。

更なる牡蠣殻の活用を目指して



資料を用いてワークショップを行った結果、具体的な人数はカウントできていないが景品として配ったものから、約 80 名の方に鳥羽市の牡蠣殻についての認識を深めてもらうことができた。

